



概要

- [Cisco Intersight 仮想アプライアンスの概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Intersight Assist の概要 \(12 ページ\)](#)

Cisco Intersight 仮想アプライアンスの概要

Cisco Intersight 仮想アプライアンスについて

Cisco Intersight 仮想アプライアンスでは、展開が容易な VMware OVA、Microsoft Hyper-V Server VM および Linux の KVM ハイパーバイザで Intersight の管理機能が提供されます。Intersight 仮想アプライアンスは、インテリジェントレベルの管理を提供する Cisco Intersight の利点を享受でき、これにより、お客様は、データの局所性、セキュリティ、コンプライアンス要件に対する柔軟性を高めながら、前世代のツールよりも高度な方法で環境を分析、簡素化、自動化できます。

Intersight 仮想アプライアンスは、次のいずれかのモードで展開できます。

- Intersight 接続型仮想アプライアンス
- Intersight プライベート仮想アプライアンス

Intersight 接続型仮想アプライアンスでは、どのシステム情報がプレミス外に出るかを制御しながら、Intersight の管理機能を利用できます。Intersight 接続型仮想アプライアンスの展開では、自動更新および全機能の利用に必要なサービスへのアクセスのため、シスコおよび Intersight サービスに接続する必要があります。

Intersight プライベート仮想アプライアンスでは、システム情報がプレミス外に出ないように制御しながら、Intersight の管理機能を利用できます。Intersight プライベート仮想アプライアンスの導入は、切断（エアギャップ）モードでデータセンターを運用する環境を対象としています。

Intersight Assist の概要については、「[Cisco Intersight Assist について \(12 ページ\)](#)」を参照してください。

シングルノード仮想マシンとして Intersight 仮想アプライアンスを短時間に既存の環境内に展開できます。

また、Intersight Virtual Appliance をマルチノードクラスターとして展開して、高可用性、安定性の向上、回復力の向上を実現することもできます。単一ノードアプライアンスの初期セットアップが完了したら、追加ノードを加えることができます。2つの追加ノードを正常に追加したら、Intersight 仮想アプライアンスでマルチノードクラスターを作成できます。

このガイドでは、Intersight 仮想アプライアンスを環境にインストールし、セットアップする方法の概要を示します。



注目 Intersight Virtual Appliance をインストールしてセットアップする前に、[新規の Intersight 仮想アプライアンスの VM 情報技術要件](#) セクションに記載されている情報を読むことを強くお勧めします。

Intersight の機能の最新の更新については、「[Intersight アプライアンス ヘルプセンター](#)」を参照してください。

Intersight 仮想アプライアンスのライセンス要件

Cisco Intersight 仮想アプライアンスはアプライアンスの機能を使用するために必要なサブスクリプションベースのライセンスを使用します。Intersight Essentials は **シスコ スマート ライセンス** によって提供されるサブスクリプション ライセンスです。Intersight Essentials を購入するには、シスコの営業担当者、チャネルパートナー、またはリセラーにお問い合わせください。これらのプラットフォームとは、正式な Cisco UCS Manager、Cisco IMC、Cisco HyperFlex ソフトウェアを含む Cisco Intersight デバイス コネクタのある Cisco UCS と Cisco HyperFlex システムです。

接続済み仮想アプライアンスを展開する場合は、Cisco Intersight 仮想アプライアンスの初期セットアップの一環としてライセンスを登録する必要があります。アプライアンスのインストールを完了したら、UI を起動し、インストール時に設定したパスワードでログインし、アプライアンスを Intersight に接続してライセンスを登録します。

初期セットアップ後に設定を編集する場合は、次の手順を実行します。

1. アプライアンス UI で、**[サービス セレクタ (Service Selector)]** ドロップダウンリストから **[システム (System)]** を選択し、**[設定 (Settings)]** > **[ライセンス (Licensing)]** > **[ライセンスを登録 (Register License)]** に移動します。

[スマート ソフトウェア ライセンス製品の登録 (Smart Software Licensing Product Registration)] ウィンドウが表示されます。

2. 製品インスタンス登録トークンがない場合は、**Cisco Smart Software Manager** の特定の仮想アカウントからトークンを生成します。
3. **Cisco Smart Software Manager** から取得した製品インスタンス登録トークンを入力し、**[登録 (Register)]** をクリックします。Cisco Intersight のライセンス階層と登録に関するビデオを見るには、[ここ](#) をクリックしてください。

プライベート仮想アプライアンスを展開する場合は、Cisco Intersight 仮想アプライアンスの初期セットアップの一環としてライセンスを予約する必要があります。初期設定の一部としてライセンスを予約する方法については、[シングルノード Intersight プライベート仮想アプライアンスのセットアップ](#) を参照してください。

プライベート仮想アプライアンスの初期セットアップ後にライセンスを **更新** または **返却** する方法については、「[Intersight プライベート仮想アプライアンスライセンスの更新](#)」および「[Intersight プライベート仮想アプライアンスライセンスの返却](#)」を参照してください。

Cisco Intersight 仮想アプライアンスの Intersight 評価版ライセンスは、シスコの営業担当者、チャネルパートナー、またはリセラーから取得できます。Cisco スマートアカウントをすでに取得している場合、評価版ライセンスが Cisco スマートアカウントに追加されます。追加されたら、スマートアカウントに仮想アカウント用のトークンを生成して Cisco Intersight 仮想アプライアンス の登録に進むことができます。ライセンスのアクティブ化および管理の方法やスマートライセンスの詳細については、「[スマートライセンスの管理](#)」を参照してください。

Cisco Smart Software Manager の予約ライセンス機能の詳細については、『[Smart Software Manager の概要](#)』を参照してください。

システム要件

新規の Intersight 仮想アプライアンスの VM 情報技術要件

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、VMware ESXi 7.0 以降、Microsoft Hyper-V Server 2016 および 2019、Linux 上の KVM ハイパーバイザに導入できます。Intersight 仮想アプライアンスは、中規模または大規模の構成で展開できます。

Intersight 仮想アプライアンスのサイズ オプションとサポートされる最大設定制限の詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスのサポートされている構成の制限](#)を参照してください。

表 1: 新規の Intersight 仮想アプライアンス展開のリソース要件

Resource	要件	
	中規模	大規模
vCPU	24	48
RAM (GiB)	64	96
ストレージディスク (Disk)	2TiB*	2TiB*
サポートされるハイパーバイザ	VMware ESXi 7.0 以降と VMware vSphere Web クライアント 7.0 以降 Microsoft Hyper-V Server 2016 および 2019 Linux 上の KVM ハイパーバイザ	

*Cisco では、シック プロビジョニングを使用することを推奨しています。

サポートされているハードウェア システムとソフトウェア バージョンの詳細については、[サポートされているハードウェア システムとソフトウェア バージョン](#)を参照してください。

**注目**

- VMware vSphere に Intersight 仮想アプライアンスをインストールしている間は、ディスクサイズのデフォルト設定を変更しないでください。ディスクサイズは、展開構成に基づいて計算されます。
- ソートおよびフィルタ機能の場合、VM プロセッサは、x86-64 命令セットと、SSE 4.2 および AVX 命令セット拡張をサポートする必要があります。マルチノード展開の場合、各 VM もこの要件を満たす必要があります。並べ替えとフィルタ機能は、中規模および大規模の展開でのみサポートされていることに注意してください。
- 割り当てられたリソースが中規模展開に必要なデフォルト値（vCPU の場合は 24、RAM の場合は 64 GiB）を下回る場合、展開に使用できるオプションは Assist のみにになります。他のオプションはグレー表示されます。
- **マルチノード展開のための追加のネットワーク要件**
 - ディスクの書き込み速度は 150 Mbps を超える必要があります。
 - ノード間の遅延は 9 ミリ秒未満である必要があります。
 - ノードの 3 つのホスト名はすべて、同じ DNS サーバーのセットによって解決される必要があります。

既存の Intersight 仮想アプライアンスの VM 情報技術要件

Intersight は、CPU、RAM、およびディスクに必要な変更を評価して、クラウドサービスからの更新後に、再起動中の展開サイズを決定します。評価の結果として、次のいずれかの結果が発生します。

- 特定の展開サイズに必要な最小限のリソースが使用できない場合は、Intersight サービスがシャットダウンされ、アプライアンスの電源がオンのままになります。ただし、アプライアンスが機能しておらず、実行中のサービスが不安定になっている可能性があります。アプライアンス メンテナンス シェルの再起動中に、リソース ステータスに関するエラーメッセージが表示されます。エラーと必要な修正措置の詳細については、[メンテナンス シェル](#)にログインしてください。
- 展開サイズが既存の展開と同じ場合、VM は変更なしで再起動します。技術情報要件を決定した後で、より大きな展開サイズにアップグレードできます。

表 2: 既存の Intersight 仮想アプライアンス展開のリソース要件

Resource	要件		
	小規模	中規模	大規模
vCPU	16	24	48
RAM (GiB)	32	64	96
ストレージディスク (Disk)	最大 600 GiB*	2TiB*	2TiB*
サポートされるハイパーバイザ	VMware ESXi 7.0 以降と VMware vSphere Web クライアント 7.0 以降 Microsoft Hyper-V Server 2016 および 2019 Linux 上の KVM ハイパーバイザ		



- (注)
- *Cisco では、シック プロビジョニングを使用することを推奨しています。
 - 並べ替えとフィルタ機能は、中規模および大規模の展開でのみサポートされます。

サポートされているハードウェア システムとソフトウェア バージョンの詳細については、[サポートされているハードウェア システムとソフトウェア バージョン](#)を参照してください。

Intersight 仮想アプライアンス展開のリソースの管理

Intersight 仮想アプライアンスの展開サイズを表示し、次のように CPU、RAM、およびディスクサイズを変更できます。

1. [サービス セレクタ (Service Selector)] ドロップダウン リストから [システム (System)] を選択します。
2. [設定 (Settings)] > [一般 (General)] > [アプライアンス (Appliance)] に移動します。
3. サポートされているその他のスケーリング オプションを確認し、要件に合わせて適切な展開サイズを選択します。
4. サポートされている展開オプションの技術情報要件の詳細を確認した後、VM をシャットダウンし、必要に応じて CPU、RAM とディスク サイズを変更し、VM を再起動します。



- (注)
- スナップショットがある場合は、ディスク サイズを変更できません。
 - 仮想アプライアンスのサイズオプションを使用するには、Intersight Cloud サービスから最新のアップグレードを行う必要があります。

次の表に、Intersight 仮想アプライアンスのディスク サイズ要件に関する情報を示します。

表 3: Intersight 仮想アプライアンス インストールのためのディスク サイズ要件

ディスク	すべての展開の最小ディスク サイズ要件	中規模および大規模の展開で推奨されるディスク サイズの要件
ディスク 1	ディスク サイズは変更しないでください。	ディスク サイズは変更しないでください。
Disk2	25GiB	25GiB
Disk3	150GiB	150GiB
Disk4	150GiB	150GiB
Disk5	100GiB	190GiB
Disk6	30GiB	60GiB
Disk7	60GiB	360GiB
Disk8	60GiB	1190GiB



- (注) または、アプライアンスの最新のバックアップを使用して復元を実行することで、ディスク要件を満たすことができます。詳細については、「[Intersight 接続型仮想アプライアンスのリカバリ](#)」と「[Intersight 接続型仮想アプライアンスのリカバリ](#)」を参照してください。

IP アドレスとホスト名の要件

Intersight 仮想アプライアンスの IP アドレスおよびホスト名の要件

シングルノード Intersight 仮想アプライアンスをセットアップするには、IP アドレス 1 つと、その IP アドレスの DNS レコードが 2 つ必要です。DNS レコードは次の形式である必要があります。

- **myhost.mydomain.com** : この形式の DNS レコードを使用して GUI にアクセスします。これは、DNS で **A レコード** と関連する **PTR レコード** として定義する必要があります。PTR レコードは IP アドレスの逆引きルックアップに必要です。IP アドレスが複数のホスト名に解決される場合、最初に解決されたホスト名が使用されます。
- **dc-myhost.mydomain.com** : **dc-** をホスト名の先頭に追加する必要があります。この DNS レコードは、**myhost.mydomain.com** の **CNAME** として定義する必要があります。アプライアンスがこの形式の DNS レコードを内部的に使用してターゲットの接続を管理します。

Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタの設定は、3つのホスト名、3つの IP アドレスとそれぞれのホスト名に対して1つの DC-CNAME が必要です。フォーマットの例を次に示します：

- myhost1.mydomain.com
- myhost2.mydomain.com
- myhost3.mydomain.com
- dc-myhost1.mydomain.com
- dc-myhost2.mydomain.com
- dc-myhost3.mydomain.com



注目 前述のように、タイプ **A**、**CNAME**、および **PTR** レコードの適切なエントリが DNS にあることを確認します。

予約済み IP アドレスの範囲の要件

Intersight 仮想アプライアンスは、内部通信用に次の IP アドレス範囲を予約しています：

- **172.16.0.0/12**の範囲内の/**20**サブネット：このサブネットは、アプライアンスのインストール中に1回だけ設定できます。
- **192.168.20.21/32**：この IP アドレスはアプライアンスによって予約されており、構成できません。

ポート要件

Intersight 仮想アプライアンスのポート要件

次の表に、Intersight 仮想アプライアンス通信に必要なポートのリストを示します。

ポート	プロトコル	アプライアンス構成モード	説明
443	TCP	シングルノードとマルチノード	<p>このポートは次の通信に必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Intersight 仮想アプライアンスとユーザーの Web ブラウザ間の通信。 • Intersight 仮想アプライアンスとエンドポイントターゲット間の通信。 <p>接続の詳細については、接続の要件を参照してください。</p>

ポート	プロトコル	アプライアンス構成モード	説明
2379, 6443, 2380, 9092, 9094, 9100, 10250	TCP	マルチノード	これらのポートは、Intersight 仮想アプライアンスのマルチノード構成で VM 間の通信に使用されます。
53, 67, 68	UDP	シングルノードとマルチノード	これらのポートは、DNS および NTP トラフィックの送受信に使用されます。

ネットワーク接続の要件

Intersight Connected Virtual Appliance のネットワーク接続要件



(注) このセクションの情報は、Intersight 接続型仮想アプライアンスの展開にのみ適用されます。

- Cisco Intersight 仮想アプライアンスが次のサイトに直接か、またはプロキシを介して接続できることを確認します。プロキシの設定については、[Intersight 接続型仮想アプライアンスのネットワーク接続](#)を参照してください。次のすべての URL には HTTPS を使用してアクセスします。
 - Cisco サービスにアクセスします (*. cisco.com)。
 - smartreceiver.cisco.com:443—Cisco Smart Licensing Manager にアクセスする場合
 - swapi.cisco.com:443—Cisco Smart Licensing Manager にアクセスする場合
 - tools.cisco.com:443 : Cisco Smart Licensing Manager にアクセスする場合
 - download-ssc.cisco.com、dl.cisco.com、dl1.cisco.com、dl2.cisco.com — Cisco ソフトウェアのダウンロードサイトにアクセスする場合
 - api.cisco.com:443 : シスコ ソフトウェアのダウンロードサイトにアクセスする場合
 - cloudso.cisco.com : Cisco ASD にアクセスする場合



(注) Cisco Intersight を使用すると、次のデバイスで新しいドメイン download-ssc.cisco.com を介してファームウェアのダウンロードを管理できます。

- Cisco UCS C シリーズ スタンドアロン サーバー
- UCSM に管理された B シリーズおよび C シリーズ サーバー :
- UCSM に管理された ファブリック インターコネク ト
- UCSM に管理された ファブリック インターコネク トが添付された Cisco UCS S3260 シャーシ

この新しいドメインをファイアウォールルールとネットワークルールに必ず追加してください。詳細については、[Cisco ソフトウェア ダウンロード](#)を参照します。

- Intersight クラウド サービスへのアクセス。

Intersight 仮想アプライアンスは、次のいずれかの URL を解決することによって interswitch に接続します。



(注) 特定の URL の IP アドレスが変更される可能性があります。固定 IP を使用する URL のファイアウォール設定を指定する必要がある場合。次に、各リージョンに対応する静的 IP アドレスを示します。

北米 (us-east-1) リージョン

- svc.intersight.com:(推奨)
- svc.ucs-connect.com:(今後廃止される予定です)

これらの URL はどちらも次の IP アドレスに解決されます。

- 3.208.204.228
- 54.165.240.89
- 3.92.151.78

EMEA (eu-central-1) リージョン

- svc.eu-central-1-static1.Intersight.com

• これらの URL はどちらも次の IP アドレスに解決されます。

- 99.84.238.166
- 99.84.238.204

- 99.84.238.94
- 99.84.238.110

Intersight Connected Virtual Appliance へのターゲット接続を成功させるには、次の接続要件が満たされていることを確認します。

- デバイスコネクタからアプライアンスへのネットワーク接続を確立します。
- デバイスコネクタで **Intersight** の管理が有効になっていることを確認します（デフォルトでは有効になっています）。**Intersight Management** は、Cisco UCS Manager / Cisco UCS Director / Cisco IMC の **Admin > Device Connector > Intersight Management** にあり、Cisco HyperFlex UI の [設定 (Settings)] > [デバイス コネクタ (Device Connector)] にあります。
- 管理対象ターゲットとアプライアンスの間にファイアウォールが展開されているか、または既存のファイアウォールのルールが変更されたため接続が影響を受けているかどうかを確認します。ルールが変更された場合は、変更後のルールでファイアウォールを介したトラフィックが許可されていることを確認します。
- 該当するすべての物理 IP および仮想 IP がファイアウォールを通過できることを確認します。
- HTTP プロキシを使用して施設からトラフィックをルーティングし、その HTTP プロキシサーバーの構成に変更を加えた場合は、デバイスのコネクタの設定をそれに応じて変更してください。アプライアンスは自動的に HTTP プロキシサーバーを自動的に検出しないため、これを行う必要があります。
- DNS を構成し、DNS 名を解決します。デバイス コネクタが DNS サーバーに DNS 要求を送信し、DNS レコードを解決できる必要があります。デバイス コネクタが `dc-<fqdn-of-your-appliance>` を IP アドレスに解決できる必要があります。
- NTP を構成し、ターゲットの時刻がタイムサーバーと適切に同期されていることを検証します。



-
- (注) ターゲットの時刻が正しく同期されていないと、デバイスコネクタはアプライアンスへのセキュアな接続を確立できないことがあります。また、TLS 証明書が無効とみなされる場合があります。
-



-
- 注目 デバイスコネクタの UI ではなく、管理インターフェイス（Cisco UCS Manager/Cisco IMC/Cisco HyperFlex）で DNS と NTP を構成する必要があります。
-

- アプライアンスへのネットワーク接続を有効にして、ネットワークパスにあるセキュリティターゲットを設定する必要があります。
- デバイス コネクタは <<https://dc-fqdn-of-your-appliance>> への HTTPS 接続を確立した後、HTTPS 接続を Web ソケットへアップグレードします。セキュリティルールで、デバイス コネクタによる Web ソケット接続の確立が許可されていることを確認します。
- Intersight デバイス コネクタは、[Amazon Trust Services](#) を使用して証明書を検証します。証明書の検証を利用する場合は、ファイアウォール設定でポート 80 を開き、amazontrust.com への通信を許可する必要があります。証明書の検証を許可することはオプションですが、推奨されます。



重要 Intersight は、オンライン証明書ステータスプロトコル (OCSP) および証明書失効リスト (CRL) サーバーを使用して、HTTPs 証明書を検証します。これらのプロトコルは、HTTP 経由で失効ステータスを配布するように設計されています。CRL と OCSP メッセージは、X.509 証明書の失効ステータスを示す公開文書です。これは証明書を発行する認証局 (CA) によって生成されます。なりすましを防ぐために、CRL と OCSP メッセージは認証局によってデジタル署名されます。失効ステータスデータは公開され署名されているため、HTTPs で CRL/OCSP 接続を保護する必要はありません。

PKI クライアントは、CRL を照会するか、OCSP を使用して、使用前に証明書を検証できます。特に、クライアントがサーバーへの TLS セッションを確立すると、サーバーによって提示された X.509 証明書の証明書失効ステータスを判断できます。証明書が有効な場合、TLS 接続を続行できます。証明書が取り消された場合、クライアントは TLS 接続を終了する必要があります。元の TLS 接続が CRL または OCSP ルックアップをトリガーし、それが別の接続をトリガーして失効ステータスを取得します。そのセカンダリ接続が HTTP 経由で行われる場合、それ自体が別の接続をトリガーして、失効ステータスを再帰的にチェックする可能性があります。

サポートされるブラウザ

Intersight 仮想アプライアンスでサポートされるブラウザ

Cisco Intersight は、以下のサポートされているブラウザのバージョン以降で動作します。

- Google Chrome 62.0.3202.94
- Firefox 57.0.1
- Safari 10.1.1

- Microsoft Edge (Chromium) Beta

ソフトウェアの互換性

Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェア互換性

この項では、アプライアンスでサポートされている次のソフトウェアの最小バージョンの詳細を示します。

コンポーネント	サポートされている最小バージョン
Cisco UCS Manager	3.2(1)
Cisco HyperFlex Connect および データ プラットフォーム	2.6
Cisco IMC	3.1(3) (M5 サーバーの場合) 3.0(4) (M4 サーバーの場合) M4 サーバーと M5 サーバーの Cisco IMC ソフトウェアの要件の詳細については、ヘルプセンターの「サポートされるシステム」の項を参照してください。 サポートされるソフトウェアとデバイスコネクタの必要なバージョンの詳細なリストについては、『 デバイスコネクタ要件 』を参照してください。
Cisco UCS Director	6.7.2.0
Cisco Intersight 管理モード	4.1(2a)

Cisco Intersight Assist の概要

Cisco Intersight Assist について

Cisco Intersight Assist は、エンドポイント デバイスを Cisco Intersight に追加するのに役立ちます。データセンターには、Cisco Intersight に直接接続しない複数のデバイスを含めることができます。Cisco Intersight でサポートされているが、直接接続しないデバイスには接続メカニズムが必要です。Cisco Intersight Assist は、その接続メカニズムを提供し、デバイスを Cisco Intersight に追加するのに役立ちます。

Cisco Intersight Assist を使用すると、Intersight が、Intersight へのダイレクトパスを持っておらず、組み込みの Intersight デバイスコネクタを備えていないターゲットと通信できるようになります。これらには、ストレージデバイス、ハイパーバイザマネージャー、アプリケーションパフォーマンス管理製品などのターゲットが含まれます。Intersight Assist は、ターゲットのネイティブ API と通信し、Cisco Intersight との間の通信ブリッジとして機能します。Intersight

Assist サービスは、Cisco Intersight SaaS とともに使用すると、スタンドアロン アプライアンスとして実行されます。接続型仮想アプライアンスとプライベート仮想アプライアンスの場合、サービスが併置されるため、個別の Assist アプライアンスは必要ありません。

アプライアンス UI > ターゲットに移動すると、Intersight Assist の詳細を表示できます。

セットアップウィザード中にインストーラから Cisco Intersight Assist をインストールすることを選択できます。ESXi サーバー、カーネルベースの仮想マシン (KVM)、HyperV ハイパーバイザにインストールできます。



(注) Intersight Assist の登録を解除することはできず、アプライアンスで別の Intersight Assist を要求することもできません。

Cisco Intersight に Intersight Assist を要求した後、[Intersight Assist による要求 (Claim Through Intersight Assist)] オプションを使用してエンドポイントデバイスを要求できます。詳細については、「[ターゲットの要求](#)」を参照してください



(注) Cisco Intersight Assist は、IPv6 構成をサポートしていません。

Pure Storage デバイス、Hitachi Virtual Storage Platform デバイス、NetApp ストレージコントローラ、VMware vCenter などのデバイスを、Cisco Intersight Assist を使用して要求した後、Cisco Intersight に追加できるようになりました。

Intersight Assist のライセンス要件

ライセンスに関する詳細については、[Cisco Intersight のライセンス](#)を参照してください。

Intersight Assist のシステム要件

Intersight Assist の VM リソース要件

Cisco Intersight Assist は、カーネルベースの仮想マシン (KVM)、HyperV ハイパーバイザ、VMware ESXi 7.0 以降に、VMware vSphere Web Client 7.0 以降の Microsoft Hyper-V Server 2016 および 2019 とともに展開できます。ここでは、Cisco Intersight Assist をインストールして展開するためのシステム要件について説明します。Intersight Assist の展開には、小 (Small)、中 (Medium) と大 (Large) のオプションがあります。

新規展開： Intersight 仮想アプライアンスは、小規模、中規模、または大規模の構成で展開できます。

既存の展開： 既存の展開は、小規模、中規模、中規模、および大規模の構成でサポートされます。ただし、既存の小規模展開を小規模、中規模、または大規模構成に移行することをお勧めします。



- (注) ・小規模展開は、既存の Assist 展開でのみサポートされ、Intersight Orchestrator にのみ適用されます。

表 4: Intersight Assist のリソース要件

Resource	要件			
	極小（既存の展開でのみサポート）	小	中	大規模
vCPU	8	16	24	48
RAM (GiB)	16	32	64	96
Supported Features	ICO と IKS	ICO、IWO、IST、IKS	ICO、IWO、IST、IKS	ICO、IWO、IST、IKS
サポートされるハイパーバイザ	VMware ESXi 7.0 以降 VMware vSphere Web Client 7.0 以降 カーネルベース仮想マシン (KVM) Hyper-V ハイパーバイザ			

次の表では、Intersight Workload Optimizer に Cisco Intersight Assist を展開するためのシステム要件について説明します。

表 5: Intersight Workload Optimizer の Intersight Assist リソース要件

リソース要件	システム要件		
	小	中	大規模
vCPU	16	24	48
RAM (GiB)	32	64	96
ストレージ	500GiB	500GiB/2TiB*	2TiB*
設定の導入	最大 1000 の仮想マシン	最大 30000 の仮想マシン	最大 100,000 の仮想マシン

- ・既存の展開は、500GiBのままにするか、2TiBにアップグレードすることで、小規模構成から中規模構成にアップグレードできます。
- ・中規模および大規模構成の新しい展開は、2TiBのフルディスクサイズ構成でのみサポートされます。

以下のテーブルは、Intersight Service for HashiCorp Terraform Service (IST) の Cisco Intersight Assist のリソース要件をリストしています。

表 6: Intersight Service for HashiCorp Terraform Service (IST) の Intersight Assist リソース要件

リソース	要件		
	小	中	大規模
vCPU	16	24	48
RAM (GiB)	32	64	96
Terraform Agent の数	5	5	5

Intersight Assist のポート要件

次の表に、Cisco Intersight Assist の通信のために開いておく必要があるポート番号を示します。

ポート	プロトコル	説明
443	TCP/UDP	次の通信に必要です。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Intersight Assist とユーザーの Web ブラウザ間。 • Cisco Intersight Assist とエンドポイントデバイス間。

Intersight Assist でサポートされるブラウザ

Cisco Intersight Assist および Cisco Intersight は、以下のサポートされているブラウザのバージョン以降で動作します。

- Google Chrome 62.0.3202.94
- Firefox 57.0.1
- Safari 10.1.1
- Microsoft Edge (Chromium) Beta

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。